

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 10月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200320		
法人名	メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム南観音ひまわり		
所在地	広島市西区南観音6丁目3-31 電話082-295-3717		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200320-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年10月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

住宅地に立地され、散歩、買い物も行きやすく、比較的静かな環境にあり小学校・中学校も近く登下校に子供たちの声が聞こえ日常を感じられるグループホームである。家庭的な雰囲気を大切にし、入居前の生活をイメージし継続できることはできるだけ続けて頂けるように支援している。季節ごとの行事を現在はホーム内で楽しんで頂けるように計画して実施している。ご家族様には毎月お手紙をお送りし、近況報告を行っている。母体は医療法人であり、入居者様の体調管理など連携を図り、何かあれば直ぐに対応できるようにしている。ご家族様のリモートでの面会希望にも答えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍による自粛はあるが、今年度から新体制となった事業所における最近の特徴的な取り組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化が見られる。即ち事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが、現在のコロナ禍による面会制限に対し家族の要望に基づき県外家族とのオンライン面会、又事業所での窓越し面会では人数・時間に制限を設けず実施し、利用者は孫の訪問を喜び、利用者の顔を見て喜ぶ家族の姿があった。第二に「理念の共有と実践」「チームでつくる介護計画とモニタリング」に深化が見られる。即ち事業所は事業所ケア目標は偶数月に朝礼で唱和し理念と共に意識付けを図っているが、そのケア目標は職員アンケートで毎年策定し、年度末に振り返り次年度に繋げている。それらを土台にコロナ禍でも家庭的な仕事を奪いたくない思いから利用者の主体的な役割作りに繋がる介護計画の立案に努めている。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎年、職員にアンケートをお願いし、法人の理念以外にもグループホームのケア目標を作成し、毎朝、朝礼時に唱和している。また、理念自体の重要性についても職員一人一人に指導している。	母体医療法人理念は奇数月、グループ会社理念・事業所ケア目標は偶数月に朝礼唱和し意識付けを図っている。ケア目標は職員アンケートで毎年策定し、年度末に振り返り次年度に繋げている。職員も理念に沿った年間目標を設定し、管理者との半期毎の個人面談で達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は町内会の祭りや体操などにも参加していたが、コロナの影響により町内会への参加は出来なくなっている。運営推進会議もリモート会議となり直接の参加は出来てはいるが、会議の議事録などは町内会長にお渡ししている。	現在はコロナ禍により近隣散歩以外は自粛中だが、本来は日頃から買い物や町内会に加入し地域行事にも参加している。事業所の夏祭り等に地域住民やボランティアを受け入れる相互交流や地域の秋祭り等で子ども達と世代間交流もあった。現在は適宜リモート交流も活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	観音地域包括センターが主催する「観音認知症応援団」に現在はリモートにて参加し情報の共有をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催。ご家族様、入居者様、町内会長、地域包括の方とリモートにて情報共有し、意見を頂いている。行事などの報告も同時に行っている。	会議はコロナ禍により家族・利用者の参加の他は町内会長や地域包括支援センター職員等へ書面による事前照会となっており、意見聴取は電話で行っている。参加家族からの質問に対しオンライン面会等を紹介した例がある。家族との情報共有を図るべく議事録を送付している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市の主催する研修にできる限り参加しようとしているが、コロナの影響により中止となったり、延期のなったりするケースもある。	地域包括支援センター職員と運営推進会議の事前照会（配布の会議資料）で情報を共有し、同センター主催の認知症カフェ「観音認知症応援団」活動にも協力している。市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の集団指導研修会へのオンライン参加等で協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	関連法人グループにて年2回の身体拘束に関する研修を行っている。また、グループホーム内でも年2回勉強会を行っている。入居者様が外へ出ようとされる時は声掛けにより一緒に歩き落ち着かれるように配慮し支えるようにしている。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。法人感染委員会で各事業所の拘束状況を定期的に検証しており、運営推進会議の中で拘束例はない旨を報告している。夜間センサーマットを設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	関連グループにて年2回の虐待に関する研修を行っている。職員の入居者様への言動の変化にも注意し目上の方の尊敬の念を意識する為、朝礼時にも唱和している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連法人内の勉強会に参加し権利擁護に関する内容を学び意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、法人在宅事業部マネージャーを交えて説明を行っている。細かい部分についても事前に説明し有無の確認をしている。リスクマネジメント、苦情、要望については対応方法を文章で説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設入り口に意見箱を設置しているが、現在は面会ができない為、窓越しで面会に来られた家族様に話しやすい雰囲気を作り、要望があれば、書類にし、全体カンファレンスやサービス向上委員会にて話し合い原因究明、再発防止に努めている。	現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族とは電話連絡・介護計画更新時・事業所での窓越し面会等で意見・要望を把握し迅速な対応に努めている。利用者が花好きという情報から家族が植木鉢や花を準備すると利用者が水をやり花を育てる意欲的な生活作りに繋がった例がある。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回必ず全体カンファを行っている。欠席者については事前に書類参加にて意見を出してもらっている。カンファレンスの内容については迅速に書類にて回覧している。	毎月の全体会議、申し送り、管理者他との年2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や職員目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員提案により、汚染衣類の処理手順につき専用の容器を設置して感染防止に繋げた経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を実施している。前年度の反省を基に個人目標について面接を行っている。職員の抱えている問題を把握し対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設外の研修に参加が難しいが参加した場合は報告書にて他の職員にフィードバックしている。また、職員研修用にDVDを視聴し全員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	観音地域包括支援センター主催の認知症カフェ「観音認知症応援団」にリモート参加し近隣の事業所と知識を深めると共に施設間の交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者様の生活状況を把握し、入居者様の訴えを可能な限り傾聴し、ご本人様が求めていることや不安を理解しようとして努力している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談、契約時にご家族様に入居者様の生活状況やご家族様の悩み、不安などを傾聴し日常生活を安心して過ごして頂けるようにご説明し、納得して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様、ご家族様の希望されている事を知る為にも細やかな連絡、報告を行い、お考えや思いを理解して可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個人の尊厳を尊重し信頼関係を深めている。生活上のお手伝いを行うだけではなく料理など教わる部分も多く、共に支え合う関係を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の近況やホーム内での行事など毎月のお手紙にて報告している。面会も制限がある中、窓越しにてお話しされ、ご要望などもお伺いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と季節ごとの手紙や写真のやり取りを行ったり、電話やリモートなどでお話しができるようにご連絡している。	現在はコロナ禍による面会制限中であり、県外家族とのオンライン面会、事業所での窓越し面会等、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めている。利用者の出した残暑見舞いに返事が来て「書いたから届いた実感」を味わい、喜んだ等、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う入居者様と一緒に過ごして頂けるように配慮をしている。グループレクリエーション(トランプ等)、集団レクリエーション(歌、風船パレー等)を一人一人に合わせ関りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後についても入居者様、ご家族様の意向を確認しながら相談の上、同法人全体でバックアップしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人に寄り添いながらコミュニケーションを図っている。ご本人様の意向をしっかりと受け止め、意思疎通が困難な方にはご家族様も含めた意向の把握に努め情報収集を行っている。	利用者毎に担当者を決め、その方に深く関わりを持つことで思いを汲み取り介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。思いの表出が困難な方の家族から昔の好きな時代劇俳優の話聞き、そのDVDを見てもらうとその名前を叫んだり、居間で他の利用者と一緒に劇場も楽しんだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様、ご家族様、ケアマネジャーなどご本人様をよく知る方からの情報をもらいグループホームでの生活に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人お一人の過ごし方は行動、言動、体調管理の記録を細めに行い、職員間で把握している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>1ヶ月～3ヶ月毎に見直しを行っている。カンファレンスを実施し、入居者さまのニーズにマッチした計画を立てている。また、ご家族様のご意見、要望を反映させるように努めている。</p>	<p>介護計画原案を適宜担当者会議で検討し、電話連絡等で家族の同意を得て本案としている。計画作成担当者が毎日のモニタリングを集約し、3ヶ月を基本に計画を見直している。コロナ禍でも家庭的な仕事を奪いたくない思いから主体的な役割作りに繋がる立案に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者様個人の記録ファイルがあり、ご本人の発言や行動記録、ケアプランに添ってケアの実践、その日の職員間での気付きを記録、報告しカンファレンスに活用し活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居者様の状態やご家族様の意向に配慮しながら臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方や町内会長の方に情報提供していただき協力関係を築いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>1週間～1ヶ月に1回定期受診を行っている。主治医には経過を報告し、必要に応じてご家族様にも付き添いをお願いしている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は系列の協力医療機関に月1回の定期受診をしている。又、協力歯科医から適宜往診もある。専門医の受診は家族の協力も得ながら行われ、法人系列の訪問看護からも利用者の健康管理について適宜協力・支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃から介護職員と訪問看護師の関係を密にしている。個別のファイルを作成し、情報を共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐため、入居者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、ご家族様にも回復状況等の情報交換しながら退院支援に繋げている。退院前のカンファレンスなどにも参加し退院後のスムーズな支援ができるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居者様、ご家族様のご意向を踏まえ、主治医、看護職、訪問看護師との連携をとり対応できるケアについて説明を行っている。現在看取りの方1名継続中。</p>	<p>要望があれば看取りを行う方針である。契約時に「看取りに関する指針」を説明・了解を得ている。重度化した際には家族・医師・訪問看護師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針である。マニュアルも整備され、現在1名の看取りを行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応についてマニュアルはあるが応急処置の訓練は行っていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>マニュアルを作成し、夜間想定、日勤想定をした職員、入居者様の訓練を毎月行っている。また、地震災害、大雨による洪水想定し垂直避難訓練も実施している。</p>	<p>所定の避難訓練の他、主に新人職員を対象に毎月訓練を実施している。事業所は大雨降雨時の浸水想定区域に該当しており、階段での垂直避難訓練等も実施し周知徹底を図っている。又、運営推進会議で地域住民に向け消防署の協力の下、災害時の一般的な協力要請も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人様の気持ちを大切に考え、さりげない声掛けでケアを心掛けたり、できるかぎり分かりやすい言葉や選択肢を用いて自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけもトイレよりご不浄等、伝わりやすい言葉で工夫をしたり、気づきを促している。個人情報についても利用者の作品展示の際も家族の承諾を得る等、配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	細かな事でも複数の選択肢を提案して入居者様が自己決定できる場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の体調やお気持ちを尊重しそれに合わせ対応を心がけている。散歩やドライブなど個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定がしにくい入居者様には職員と一緒に考えて本人様の気持ちに沿った支援を心掛けている。訪問美容で希望に沿ったカットや毛染めをしてもらうように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片付けを職員と一緒にやっている。何が食べたいのか、お好きな食べ物は何かなど、入居者様の意向を聞きながら食事のメニューを考えるように努めている。	毎日の献立は食の好みも勘案し職員による三食手作りである。事業所の菜園から採れた野菜が食卓に上がったり、寿司の出前、毎月のパンケーキ作り等、楽しみとなる工夫もある。利用者は食器洗い等、役割に応じた手伝いをしたり、利用者に応じた個別テーブルを導入する配慮もある。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一日を通して手作りによるバランスの良い食事を提供し、記録することで職員間で把握している。また、お一人お一人に合わせた食事形態、アレルギーに対応した食事を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行っている。ご自分でできる方には声掛けを行い、難しい方には介助にて実施している。また、必要に応じて歯科往診を依頼して指導を頂きながら適切なケアをしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>お一人お一人の排泄リズムを行動や仕草で確認し、食前、食後以外にも様子観察、見守りしてなるべく自立した排泄をして頂けるように支援している。</p>	<p>排泄管理表でパターンを把握しトイレ誘導を基本としている。ベッド上で紙おむつから二人介助で日中トイレ誘導を進め、今は自力で手すり支持・紙パンツになった自立支援例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便の確認を行っている。便秘気味の方には食事、水分に注意し体操などを取り入れている。水分摂取量の少ない方に関しては毎日の記録をとり主治医に報告している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日勤帯ではあるが、入居者様のタイミングで入浴して頂くようにしている。冬季は特に脱衣所の温度管理に注意している。お一人お一人の既往歴などを考慮し入浴時間を調整している。</p>	<p>週3回の日勤帯での入浴が基本だが、毎日でも可能である。利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。据え置き式家庭浴槽に2方向から入れる。カラオケテープに合わせて鼻歌気分での入浴や個人専用の保湿クリーム等もとり入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>リビングにソファー等を置き休 息できるようにしている。テラス やベランダでも気持ちよく過 ごせるように椅子やテーブルを 配置している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>職員全員が把握できるよう表を 作成している。日付・名前を2 重、3重に確認して服用して 頂き変更があれば、その都度 更新する。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごすように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>お一人お一人の楽しみな事をお 聞きしお好きな事をして頂いて いる。役割についても分担して 無理なくして頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	<p>外出の機会が難しく近隣の散 歩やドライブなど行っている。 同グループのギャラリーなどに 参加し見学に行っている。</p>	<p>コロナ禍で外出は当面の間自 粛をしているが、天候が良けれ ば近隣の散歩や季節行事とし てお花見・紅葉狩りドライブを 適宜行っている。又、法人系 列のギャラリーに利用者が作 った展示作品を見学に行く等 、普段は行けないような場所 に出かけるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>入居者様、ご家族様の希望が あれば財布を金庫でお預かり している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本様の希望があれば電話ができるようにしている。ご家族様、ご友人からの電話も積極的に受けている。季節ごとには年賀状。暑中見舞いなど送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや居室等に許可を頂き日々の様子や誕生日の写真や習字などを展示し居心地の良い空間作りに努めている。	利用者が摘んだコスモスを玄関に飾ったり、フラワーアレンジメントや季節行事の飾り付け、利用者とする折り紙等で季節の移ろいが感じられるようにしている。又、朝餉・夕餉の匂い等で居心地の良い生活空間となっている。感染症対策で消毒や換気等にも万全を期している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング前にソファを置いたり、テラス、ベランダにもテーブル、椅子を置き談話スペースを作っている。事務所前にも椅子を置いて職員とも談話しやすい環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはご家族様にはタンス、椅子、テレビや写真など使い慣れた物を持参して頂くようお願いしている。	居室にはベッド・クローゼット・洗面所等が備え付けられ、テレビ等、使い慣れた物や好きな時代劇俳優のプロマイド写真等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては転倒防止のためベッドに替えてマットレスを敷いて対応する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人様が自らで分かりやすいようにトイレの場所に札を付けている。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎年、職員にアンケートをお願いし、法人の理念以外にもグループホームのケア目標を作成し、毎朝、朝礼時に唱和している。また、理念自体の重要性についても職員一人一人に指導している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は町内会の祭りや体操などにも参加していたが、コロナの影響により町内会への参加は出来なくなっている。運営推進会議もリモート会議となり直接の参加は出来てはいるが、会議の議事録などは町内会長にお渡ししている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	観音地域包括センターが主催する「観音認知症応援団」に現在はリモートにて参加し情報の共有をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催。ご家族様、入居者様、町内会長、地域包括の方とリモートにて情報共有し、意見を頂いている。行事などの報告も同時に行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市の主催する研修にできる限り参加しようとしているが、コロナの影響により中止となったり、延期のなったりするケースもある。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	関連法人グループにて年2回の身体拘束に関する研修を行っている。また、グループホーム内でも年2回勉強会を行っている。入居者様が外へ出ようとされる時は声掛けにより一緒に歩き落ち着かれるように配慮し支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	関連グループにて年2回の虐待に関する研修を行っている。職員の入居者様への言動の変化にも注意し目上の方の尊敬の念を意識する為、朝礼時にも唱和している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連法人内の勉強会に参加し権利擁護に関する内容を学び意識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、法人在宅事業部マネージャーを交えて説明を行っている。細かい部分についても事前に説明し有無の確認をしている。リスクマネジメント、苦情、要望については対応方法を文章で説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設入り口に意見箱を設置しているが、現在は面会ができない為、窓越しで面会に来られた家族様に話しやすい雰囲気を作り、要望があれば、書類にし、全体カンファレンスやサービス向上委員会にて話し合い原因究明、再発防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回必ず全体カンファを行っている。欠席者については事前に書類参加にて意見を出してもらっている。カンファレンスの内容については迅速に書類にて回覧している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を実施している。前年度の反省を基に個人目標について面接を行っている。職員の抱えている問題を把握し対応している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設外の研修に参加が難しいが参加した場合は報告書にて他の職員にフィードバックしている。また、職員研修用にDVDを視聴し全員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	観音地域包括支援センター主催の認知症カフェ「観音認知症応援団」にリモート参加し近隣の事業所と知識を深めると共に施設間の交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者様の生活状況を把握し、入居者様の訴えを可能な限り傾聴し、ご本人様が求めていることや不安を理解しようと努力している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談、契約時にご家族様に入居者様の生活状況やご家族様の悩み、不安などを傾聴し日常生活を安心して過ごして頂けるようにご説明し、納得して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様、ご家族様の希望されている事を知る為にも細めな連絡、報告を行い、お考えや思いを理解して可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個人の尊厳を尊重し信頼関係を深めている。生活上のお手伝いを行うだけではなく料理など教わる部分も多く、共に支え合う関係を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の近況やホーム内での行事など毎月のお手紙にて報告している。面会も制限がある中、窓越しにてお話しされ、ご要望などもお伺いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と季節ごとの手紙や写真のやり取りを行ったり、電話やリモートなどでお話しができるようにご連絡している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う入居者様と一緒に過ごして頂けるように配慮をしている。グループレクリエーション(トランプ等)、集団レクリエーション(歌、風船パレー等)を一人一人に合わせ関りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後についても入居者様、ご家族様の意向を確認しながら相談の上、同法人全体でバックアップしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人お一人に寄り添いながらコミュニケーションを図っている。ご本人様の意向をしっかりと受け止め、意思疎通が困難な方にはご家族様も含めた意向の把握に努め情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様、ご家族様、ケアマネジャーなどご本人様をよく知る方からの情報をもらいグループホームでのせいかつに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	お一人お一人の過ごし方は行動、言動、体調管理のきろくを細めに行い、職員間で把握している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	1ヶ月～3ヶ月毎に見直しを行っている。カンファレンスを実施し、入居者さまのニーズにマッチした計画を立てている。また、ご家族様のご意見、要望を反映させるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様個人の記録ファイルがあり、ご本人の発言や行動記録、ケアプランに添ってケアの実践、その日の職員間での気づきを記録、報告しカンファレンスに活用し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様の状態やご家族様の意向に配慮しながら臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方や町内会長の方に情報提供していただき協力関係を築いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	1週間～1ヶ月に1回定期受診を行っている。主治医には経過を報告し、必要に応じてご家族様にも付き添いをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から介護職員と訪問看護師の関係を密にしている。個別のファイルを作成し、情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため、入居者様への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、ご家族様にも回復状況等の情報交換しながら退院支援に繋げている。退院前のカンファレンスなどにも参加し退院後のスムーズな支援ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者様、ご家族様のご意向を踏まえ、主治医、看護職、訪問看護師との連携をとり対応できるケアについて説明を行っている。現在看取りの方1名継続中。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についてマニュアルはあるが応急処置の訓練は行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、夜間想定、日勤想定をした職員、入居者様の訓練を毎月行っている。また、地震災害、大雨による洪水想定し垂直避難訓練も実施している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人様の気持ちを大切に考え、さりげない声掛けでケアを心掛けたり、できるかぎり分かりやすい言葉や選択肢を用いて自己決定しやすい言葉掛けをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	細かな事でも複数の選択肢を提案して入居者様が自己決定できる場面をつくるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の体調やお気持ちを尊重しそれに合わせ対応を心がけている。散歩やドライブなど個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定がしにくい入居者様には職員と一緒に考えて本人様の気持ちに沿った支援を心掛けている。訪問美容で希望に沿ったカットや毛染めをしてもらうように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備や片付けを職員と一緒にやっている。何が食べたいのか、お好きな食べ物は何かの入居者様の意向を聞きながら食事のメニューを考えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日を通して手作りによるバランスの良い食事を提供し、記録することで職員間で把握している。また、お一人お一人に合わせた食事形態、アレルギーに対応した食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行っている。ご自分のできる方には声掛けを行い、難しい方には介助にて実施している。また、必要に応じて歯科往診を依頼して指導を頂きながら適切なケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	お一人お一人の排泄リズムを行動や仕草で確認し、食前、食後以外にも様子観察、見守りしてなるべく自立した排泄をして頂けるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排便の確認を行っている。便秘気味の方には食事、水分に注意し体操などを取り入れている。水分摂取量の少ない方に関しては毎日の記録をとり主治医に報告している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	日勤帯ではあるが、入居者様のタイミングで入浴して頂くようにしている。冬季は特に脱衣所の温度管理に注意している。お一人お一人の既往歴などを考慮し入力時間を調整している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングにソファー等を置き休息できるようにしている。テラスやベランダでも気持ちよく過ごせるように椅子やテーブルを配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握できるよう表を作成している。日付・名前を2重、3重に確認して服用して頂き変更があれば、その都度更新する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人の楽しみな事をお聞きしお好きな事をして頂いている。役割についても分担して無理なくして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の機会が難しく近隣の散歩やドライブなど行っている。同グループのギャラリーなどに参加し見学に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様、ご家族様の希望があれば財布を金庫でお預かりしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本様の希望があれば電話ができるようにしている。ご家族様、ご友人からの電話も積極的に受けている。季節ごとには年賀状。暑中見舞いなど送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや居室等に許可を頂き日々の様子や誕生日の写真や習字などを展示し居心地の良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング前にソファを置いたり、テラス、ベランダにもテーブル、椅子を置き談話スペースを作っている。事務所前にも椅子を置いて職員とも談話しやすい環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはご家族様にはタンス、椅子、テレビや写真など使い慣れた物を持参して頂くようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人様が自らで分かりやすいようにトイレの場所に札を付けている。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム南観音ひまわり

作成日 2021年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議についてご家族様同士が意見交換ができていない。	多くのご家族様が参加できる。	意見や情報交換ができる環境の提供。事前に要望・ご意見などをお聞きしお答えする。	2021年12月
2	2	地域とのつきあい不足。	地域行事に積極的に参加する。	施設周辺・近隣の公園の清掃参加。	2021年11月
3	14	同業者との交流不足。	近隣の施設の行事参加。	近隣の施設の行事に参加する。入居者様だけでなく職員のお施設の運営推進会議の参加。	2021年12月
4	20	馴染みの方や場所の関係継続支援。(県外)	定期的に手紙のやり取りができる。	年2回(暑中見舞い、年賀状)手紙を送りご本人様とやり取りする。	2022年1月
5	35	災害対策 洪水時の避難・火災訓練。	年2回洪水時の垂直避難及び毎月の火災訓練。	年2回洪水時の垂直避難訓練時に避難用の食事提供訓練を行う。	2022年3月
6	49	日常的な外出支援。	屋外での作業及び行事ができる。	外出行事(紅葉狩り、買い物)計画。屋外の作業(畑作り、園芸)計画。	2021年11月
7	13	職員の育成。	職員1人1人の目標設定。	1人1人に面接を行い目標達成状況、意見などの話し合いの時間を作る。	2021年12月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。